

日時：2024年4月3日(水)9:30 グリーンライン 東山田駅 (中川駅 9:07～9:09 センター北 9:14～9:18 東山田駅)

ルート：①東山田駅→②申塔→③正福寺→④御霊堂跡→⑤吉田杉山神社→⑥圓應寺→⑦長屋門(本多家)→⑧若雷神社→⑨浄流寺→⑩真寺・新田地区センター→⑪新羽杉山神社→⑫西方寺→⑬新羽駅



- ①東山田駅から南へ
新北川橋を渡りがリソタノ
(イネノ)の先を左に、第三京浜
道路の下を潜り、トンネルの
先の坂道を進むと農道の先
右手に墓地と
- ②庚申塔があり、その先に
③正福寺です。
- 参拝後、東方向に進むと
Y字路の上に墓地があり
④御霊堂跡です。
- 墓地から南に進むと
⑤杉山神社の裏に着きます
南側の表参道の長い階段を
下り、左(東)に400mで
⑥圓應寺(火渡儀式で有名)
北隣に⑦長屋門があり
(本多家、個人宅です)
- 東に150mでバypass道路
です、右(南)に400m先
横溝酒店のある交差点の
次の交差点を右(西)に曲が
り 緩い坂道を上ります。
住宅地の中に
- ⑧若雷神社があります。
鳥居の先の下道を100m先
の新吉田南交差点で、右(西)
にバス通りを進むと
- ⑨浄流寺です。(貝塚バス停)
- バス通りを南に300mで郵便局
の先に新田地区センター(トレ)
奥に ⑩常真寺です。
- 郵便局の前で、道路を渡り
左の通学路、東急バス書庫前を
通り、庚申堀交差点(地下鉄の
下)を左(南)に行くと
- ⑪新羽杉山神社 さらに南に
- ⑫西方寺です
茅葺屋根の古刹で一休み
- ⑬新羽駅で解散です

①東山田駅 乗降人員 9,258 人/日(2022 年)

平成 20 年(2008)3月 20 日横浜市地下鉄グリーンラインの中山・日吉の開通と同時に開業。
県道 102 号・荏田綱島線に面しているが、駅周辺の都市計画は頓挫したままになっている。



エネオスの先を左に入り、第三京浜道路の下を潜ります。トンネルの先の坂道を歩きます。

②庚申塔・地藏像 新吉田町 4573。

右側の祠内には庚申塔(1.23m)元禄 10 年(1697)、子育て地藏像(50cm)宝暦 12 年(1762)、石燈籠(83cm)明和6年(1769)の建立、左側の祠内には地藏童子供養塔(38cm)安政2年(1855)建立されている。これらの地藏像等は、港北幼稚園近くにあったものを移転したものの。



③正福寺 天台宗星宿山正福寺。新吉田町 4569。

二世が寛永元年(1624)に入寂とのことから、これ以前の創設。平成 18 年(2006)新本堂再建時に本尊の木造釈迦如来坐像8寸を修復の折に、貞享 3 年(1686)と書かれた木札が発見された。山門前 左側の閻魔座像は元禄 10 年(1697)建立、右側の地藏像錫杖は宝永4年(1707)建立。右手奥に六地藏は砂岩のため風化が著しことから、新しく六地藏像が前に建立されている。住職はサッカークラブ・エストレーラ FC の事務所で同クラブ運営する NPO 法人の理事長。現在は幼稚園児・小学生約 140 人、中学生約 60 人の選手とコーチ 10 人などが在籍しているとのこと。



④ 御霊堂跡(ごりょうどう) 新吉田町 4475。

昔は観音堂と呼ばれていた。鎌倉権五郎景政を御霊大権現として、持仏の十面観世音菩薩を安置し、地元民が南北朝時代に建立した。景政は、平安時代後期の永保3年(1083)～寛治元年(1087)後三年の役(奥州の清原氏と源義家(八幡太郎義家)の戦、清原氏が消滅)。景政は源義家の家来として戦い、その後この地で亡くなった。景政の霊は明治 41 年に吉田杉山神社に合祀。平成 20 年に本尊の十一面観世音菩薩、閻魔大王、葬頭河婆(そうづかば)(三途の川で亡き者の衣服を剥ぎ取る鬼姿の老婆)は正福寺領内へ移された。また道路沿いの祠には、馬頭観音塔、寛永元年(1624)や地藏像享保6年(1721)がある。

※御霊神社は各地に多数あり、殆どが景正を祭っている。(下記の逸話や歌舞伎の影響か)

鎌倉権五郎景政は平安時代後期の武将 父は桓武平氏の流れをくむ平景成、(平景通の子とする説も) 父の代から相模国鎌倉(現在の鎌倉市周辺)を領して鎌倉氏を称した。居館は藤沢市村岡東とも鎌倉市由比ヶ浜ともいわれている。16歳のころ**後三年の役**で源義家と奥州の清原家衡の戦)で源義家の家来として戦い、景政は右目を射られながらも奮闘した逸話「奥州後三年記」が残されている。三浦為継が景政の顔を踏んで矢を抜こうとすると、「矢にあたって死ぬことは、武人にとって望むところであるが、生きながら他人の足でこの面を踏まれることは我慢ならない。お前を仇として、私もここで死ぬつもりだ」と答えた。言葉を失った為継、膝をかがめて顔おさえて矢を抜いた。多くの者がこれを見聞きして「景政の功績並ぶものなし」と語り合ったとか。(景政の子孫に鎌倉幕府創建の功臣梶原景時がいる。)

鎌倉権五郎景政の霊を祀った御霊社は、鎌倉はじめ全国各地に分布。ご利益はその武勇伝から「戦勝祈願」と片目を失った逸話から「眼病平癒」がある。また、コロナの中で開催された東京オリンピックで歌舞伎の演目の「暫」(しばらく)が演じられたのは 景正が勝利の神様だと思つとピッタリです。浅草寺に銅像があります。



C班は左(東)へ、
杉山神社は寄らずに、
直接円応寺に向かいます

⑤**吉田杉山神社** 新吉田町 4509。建設年代不詳。祭神:五十猛命(いそたけるのみこと)、鎌倉権五郎景政、比野聖廟、素戔鳴命 境内社:稻荷神社、天満宮、庚申社。例祭日:10月9日。「武蔵国都筑郡杉山神社」は平安時代の延長5年(927)「延喜式神明帳」に記載されている式内社。江戸幕府が編纂した「新編武蔵国風土記稿」に記載されている**72社の杉山神社の中の一つ**。今回は鳥居から上らずに神社から階段100段を下り、鳥居ある表入口からでる。



⑥**圓應寺(えんのうじ)** 高野山真言宗海照山圓應寺。新吉田町 4098。

火渡儀式(市の民族無形文化財)

開山開基は不明、盛秀上人で正保4年(1647)に入寂とある。御本尊は千手観世音菩薩(151.5cm)室町時代末期の製作(胎内からの文書は元禄13年(1700)記載や僧侶の継印(池辺福衆院の開山~1555)。

毎年10月10日(昨年は9日)は午後1時より「火渡り」行なわれている。「火渡儀式」は、修験道において屋外に護摩壇を作り、修験者(山伏)20数名や信者が素足で火のうえを歩く。(火渡りと呼ばれる。

火渡り式は本来、山伏の入峰道修行にひとつであったが里の寺院で行われることによって、一般民衆と修験道との接点をみいだすことができ、厄除けとしての火渡りが受容されている。円応寺の火渡り式が行われるようになったのは昭和42年(1967)からである。本多家墓地に板碑一基、宝珠印塔が2つある。



長屋門(本多家)

元々は武家屋敷でみられた門の形式。郷村武士や苗字帯刀を許された名主でも長屋門は作られた。門の両側が長屋となっており、家臣や下男を住ませた。横浜市域の農村部に長屋門が多く残っている(18件ほどか?)。この本多家は昔は名主(庄屋)。今は長屋門をアパートとして使用している。



不動堂 新吉田町 4091

個人(宮田家)所有、先祖が江戸時代は修験者であったといわれ、その行のため建立した。入母屋造の神殿があり、内部に江戸時代から伝わる不動明王座像が二体を安置してある。



C班は 若電神社
参拝後、バイパス道路
に戻り、北へ向かい
1km で高田駅です。
又は、南のバス通りに
出でバスで新羽駅へ

⑦ 若電神社(わからい) 新吉田町 3600。

祭神:若電命(わけいかずちのみこと)。境内社:春日神社・稲荷神社。例祭日:9月28日。
天照大神、大己貴尊、稲倉魂尊、市杵嶋姫、豊受姫尊、伊弉諾尊、大山咋尊など合祀、昭和47年(1972)に現社殿を再建。力石:嘉永7年(1853)など。若電神社の山道入口から階段が計57段上がったところに本殿がある。今回は神社から57段の階段を下り神社入口にでる。



⑨ 浄流寺 浄土宗 超海山菩提院浄流寺。新吉田町 3317。

慶安2年(1649)に寺領5石5斗拝領。真誉上人で慶長3年(1598)。本尊は阿弥陀如来立像(60.6cm)。参道を進み境内入口の左右に各30基の石仏群(江戸時代の延宝、貞享、元禄、正徳、享保、宝暦年代)が神隠堂榎堂に観音像(39cm)享和3年(1803)、板碑など設置されている。本堂の左側に卵塔があり、最奥に尖頂角塔がある。百万遍供養塔(96cm)文化4年(1807)、墓地に入ると七段の無縁塔がある。

※板碑:主に中世仏教で使われてた供養塔として使われた石碑の一種で板石卒塔婆など。



地藏立像 新吉田町 3297。(坂倉氏敷地内) 地藏立像 (1.45cm)享保12年(1727)

宝永4年(1707)の富士山の噴火による降灰は江戸市中までにも及び、港北区内でも一尺程の灰が積もった。気候も不順となって、その後数年間の不作、疫病の流行をもたらした。坂倉家初代六兵衛は地藏立像を享保12年(1727)に建立、救済祈願を行ったといわれている。



- ⑩ 常真寺 日蓮宗朗栄山常真寺。新吉田町 3240。本殿はコンクリート製。縁起について、開山は日蓮宗池上本門寺の二世日信で天文 13 年(1544)入寂と伝えられている。門柱は(2.70m)寛永6年(1629)建立、参道を数m進と新門柱(2.55m)花崗岩製。右側に五段に墓石を集合した上に卵塔を建てた無縁塔昭和 47 年(1972)建立がある。



新田地区センター



庚申塔(1.66m)風化が激しく刻銘年代不明

左手には市の名木古木指定の楠木とカヤ木の大本がある。



- ⑪ 杉山神社 新羽町 2576。
祭神:日本武尊。合祀:火産霊神、奥津彦神、奥津姫神、武御名方命、大己貴命、少彦名命、倉稻魂命、菅原天神、伊弉册命、速玉男命、事解男命、天照皇太神。
例祭日:10 月6日。由緒沿革:口碑によれば当社の創建は 800 年前、荷場(新羽)の郷一帯の総鎮守社。階段を上り突き当り本殿右奥に御獄神社、内部左手に不動明王像、右側に金比羅宮が合祀し、この御獄神社左脇に石仏三基、右側に入母屋造りの廿三夜(石祠 80cm)がある。



- ⑫ 西方寺 真言宗 補陀落山安養院西方寺。新羽町 2586。
慶安 2 年(1649)寺領6石7斗拝領。 横浜七福人**恵比寿神**として有名。
鎌倉時代初期の建久6年(1195)鎌倉佐々目ヶ谷に創建。開山は後醍座主勝賢僧正、開基は源頼朝公と伝えられている。正応4年(1291)鎌倉極楽寺の山中に移転、その後元弘3年(1333)新田義貞らの鎌倉攻めの後に荒廃し、明応4年(1495)新羽に移建。参道の階段右側に奥様・殿様の墓と呼ばれる若林六郎左衛門尉の墓がある。
※若林六郎左衛門尉は新羽の領主として寛永元年(1624)～寛永 21 年(1644) その後、寛文2年(1662)～寛文 10 年(1670)は幕府佐渡金山奉行、隠居後新羽に 200 石取で余生を送っている。

宝物: 国の重要文化財:注大般涅槃経(奈良時代)、県の重要文化財:本尊阿弥陀如来座像(定朝様)(平安末期)、市の重要文化財: 本堂(元禄時代)、山門(茅葺)(江戸弘化時代)、鐘楼(茅葺)(江戸宝永時代)(当時の梵鐘は戦争中供出)、本堂内陣杉戸8枚雲中供養佛画(狩野派)(元禄時代)、本堂外陣杉戸8枚十六面(四季花鳥図)(狩野派)(元禄時代)などがある。他に巡拝供養塔(1.42m)文化7年(1810)、三十三所標識(1.23m)天明3年(1783)。

※記念碑「白露戦役記念碑」は「希典書」。乃木希典が、旅順攻略に新羽から旅立った先輩のために筆とった。

※「みます俳壇十周年記念」と刻された、新羽の風流人の句碑(1.50cm)には 16 名の句

(残菊や一筋からむ根なし蔦)などが陰刻されている。

西方寺は茅葺屋根の建物、正月は七福神めぐりと蠟梅、秋は彼岸花、萩が咲き人々を楽しませてくれている。



⑬ 新羽駅 乗降人員 19,885 人/日(2022 年度)

県道 140 号線川崎・町田線の新羽駅前交差点に駅があり、平成5年(1993)3月18日新横浜・あざみ野間の開通と同時に開業。駅名は地名(鶴見川からの荷場から転じて新羽)から。市営地下鉄ブルーラインの駅で新羽車両基地への出入庫線が分岐しており、乗務員交代駅でもある。



参考資料:港北区史、港北の遺跡をたずねて、港北区新羽地区を巡る歴史探訪、新羽史、インターネット(ウィキペディア、Google)など